



2015年10月12日

今回の博物館だよりは、明石高校留学生の着付・さをり織体験の様子と、現在開催中の秋季特別展「橋本海関・関雪展-父子の歩み-」から作品紹介を致します。



明石高校留学生 着付・さをり織体験



9月30日(水)明石高校と姉妹校提携を結んでいるオーストラリア・モーリー高校から11名の生徒が、<十二単と鎧の着付体験>と<さをり織・ティーマット作り体験>に参加の為、来館しました。着付体験をした生徒たちは、体験が進むにつれ、身動きがとりにくくなり、思わず「重さは何キロですか?」とボランティアに質問。それでも終始笑顔で、着付完了後はポーズをとり写真撮影。

一方さをり織の体験では、好きな横糸を選び思い思いのペースで作品作りを堪能していました。完成したさをり織にはそれぞれ織った人の個性が出ており、美しい作品に仕上がっていました。

体験終了後、生徒たちからボランティアへお礼の言葉が伝えられ、日本ならではの体験を存分に楽しむことができたひと時でした。

秋季特別展～作品紹介④～

唐代の汝陽(じょよう)郡の王、李璿(りしん)は酒好きとして有名で、毎朝約18リットルの酒を飲んでから出勤し、麴(こうじ)を積んだ車に出逢うと、よだれを垂らしたそうです。この作品は、李璿の逸話を賛文と絵で紹介しています。海関も40歳頃までかなりの酒豪だったらしく、李璿に共感を覚えたのもしれません。海関は自己流で絵を描いていますが、お世辞にも上手とは言えません。荷車は車輪しか描かれず、乗っている麴袋も真横から見た形で、かなり簡略化されています。

写実性は低いですが、人物は愛らしく、どこか滑稽です。戯画のようにコミカルでユニーク、それが海関の絵画の特徴と言えるでしょう。



橋本海関「汝陽王逢麴車図
(じょようおうほうきくしゃず)」
大正11(1922)年
当館蔵(秋月正章氏寄贈)

❖学芸員による作品解説❖※当日自由参加(要観覧券)

14日(水)、18日(日)

午前11時～、午後3時～(約30分)

詳しい展覧会情報は
当館HPをご覧ください。

<http://www.akashibunpaku.com>
次回の「博物館だより」をお楽しみに。